



愛媛県地球温暖化防止 キャラクター ストッピー 愛媛県県民環境部環境局環境政策課



愛媛県イメージアップ キャラクター みきやん

しまなみ海道・鹿島・遊子水荷浦の位置



しまなみ海道の概要

しまなみ海道 (西瀬戸自動車道)

・1999年すべての橋が開通(3本目の本四連絡橋)

・広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ約70km

・本州(尾道)から四国(今治)へ順に、 向島-因島-生口島(以上、広島県)

一大三島一伯方島—大島(以上、愛媛県)





サイクリングしまなみ2018



瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会

サイクリング しまなみ 2018

2018.10.28 sun





サイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」



- · 4年に1回 国際大会 (7,215人出走)
- ・多島美の絶景を満喫
- ・島民の応援、おもてなし
- ・CNNの七大サイクリングコースに選ばれる。



自転車新文化 ~健康・生きがい・友情づくり~

しまなみ海道のエコツーリズム

農林漁家民宿の振興

- ・多彩な農業体験・漁業体験
- ・農家の副収入
- ・交流人口の増加



潮流体験

潮流を間近で体験できる観潮船が、 来島海峡(大島-四国)と 船折瀬戸(伯方島-大島)で運航



しまなみ海道のエコツーリズム

文化的景観



日本遺産(平成28年認定) "日本最大の海賊"の本拠地:芸予諸島



ーよみがえる村上海賊 "Murakami KAIZOKU"の記憶ー





鹿島(愛南町)の海中公園



鹿 島

- ・愛南町沖合500mの無人島 ・面積1.3km²、周囲6km
- ・江戸時代、宇和島藩のお狩場として保護
- ・鳥獣保護区に設定(県内で唯一、全島が鳥獣保護区)
- ・鹿島を含む周辺海域を宇和海海域公園に指定(S45年)

鹿島周辺のエコツーリズム

無人島だが、夏季は海水浴場(日本の水浴場88選)へ定期船







鹿島周辺のエコツーリズム

シーウォーカー





無人島体験事業(御五神島)

・小中学生40人が 7日間無人島 生活を体験





鹿島の自然保護について

鳥獣保護区

昭和26年 島全域を鳥獣保護区に設定

昭和39年 島の南半分を特別保護地区に設定(建物建設等が原則不可)

平成12年 島全域を特別保護地区に設定

国立公園の指定

昭和30年 国定公園に指定(足摺国定公園鹿島団地)

昭和45年 全国初の海中公園に指定(宇和海海中公園)

昭和47年 国立公園に昇格(足摺宇和海国立公園宇和海海域公園地区)

愛南町西海地区の鹿島及び横島周辺の海域を指定。

・海中景観は色彩豊かなトサカ類が多いことが特色であり、また、石サンゴ類が群立し熱帯魚類も豊富である。

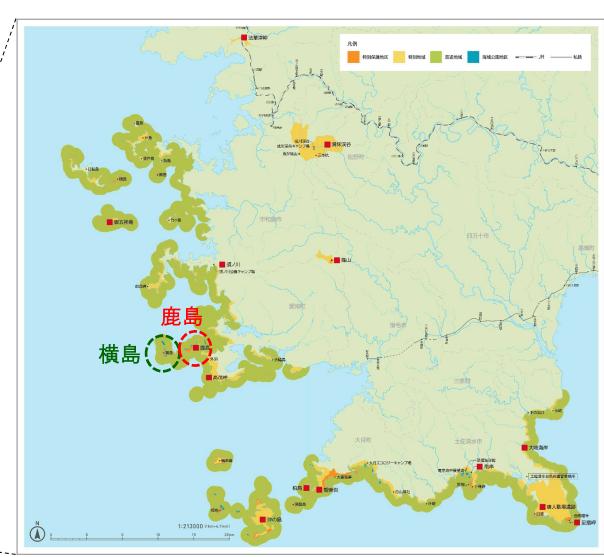
天然記念物

昭和40年 愛媛県指定天然記念物「宇和海特殊海中資源群」に指定 鹿島を含む愛南町沿岸を指定。

鹿島の自然保護について

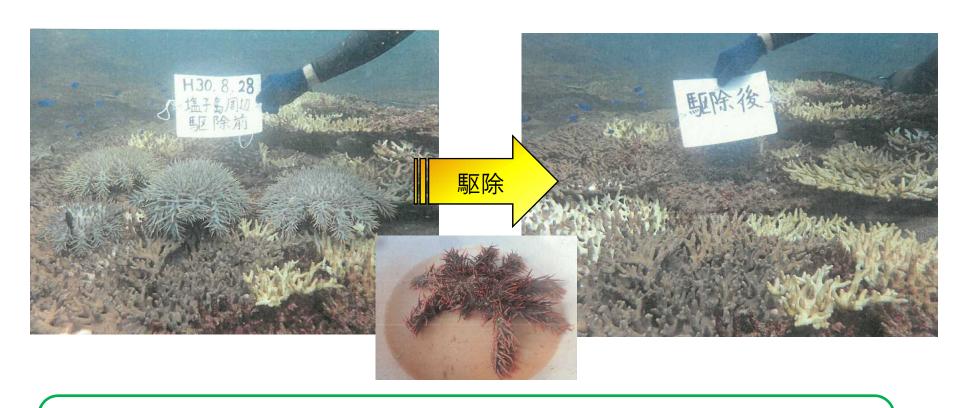
足摺宇和海 国立公園





サンゴの保護

サンゴの食害対策



- ・巻貝(シロレイシガイダマシ類)やオニヒトデによる食害が問題
- ダイバーによる駆除
- ・オニヒトデ生息域が北上傾向(温暖化の影響?)

遊子水荷浦の段畑(文化的景観)

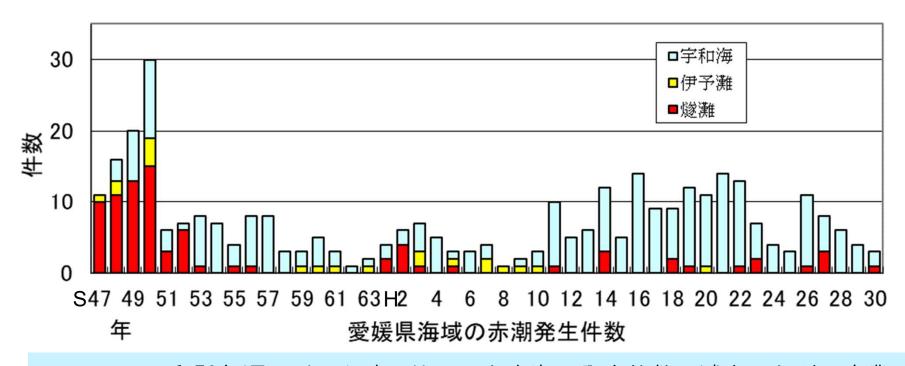






- ・江戸時代に入植した漁村
- ・地元住民による保全活動 (休耕地の復旧、 段畑オーナー制度)
- · 重要文化的景観に選定 (平成19年文化庁)

赤潮の発生状況と対策



赤潮 対策

- ·昭和50年頃のピーク時に比べると赤潮の発生件数は減少したが、漁業被害を伴う赤潮の発生は後を絶たない。
- ・愛媛県では、県水産研究センターを中心に、赤潮の監視体制を強化している。
- ・対象プランクトンが一定濃度を超えたときは、赤潮注意報、赤潮警報 が発令され、餌止め、出荷中止等の対応をとる。
 - 避難のため生け簀を移動させることも。
- ・養殖による汚濁低減については、養殖餌を、生餌からモイストペレット、 ドライペレットに切り替えるなどの対策が進んでいる。 15

課題と今後の必要な方策

自然景観、文化的景観

- ・貴重な地域資源であることを再認識し、 さらなる活用、周知に努める。
- ・ <u>交流人口増</u>を目指す。
 海域全体の取り組み ⇔ 津々浦々の取り組み
 (広域行政の自然保護・情報発信) (市・集落単位の景観保護・まちづくり)

赤潮と栄養塩類の管理

- 毎年漁業被害を伴う赤潮の発生が報告されており、 現状の水質の維持は必要。
- ・愛媛県は湾灘ごとの特性が大きく異なる(魚類養殖が盛んな豊後水道(宇和海)、魚類養殖が少なくノリ養殖のある燧灘)が、<u>湾灘ごとに異なる栄養塩管理を行う場合には、漁業者や住民の理解を得るため、根拠となる</u>科学的知見の集積が必要。

